

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。
 詳細レポート全体につきましては弊社ウェブサイトをご覧ください。

2021年2月4日、シンバイオ製薬株式会社は2020年12月期通期決算に関して発表した。

四半期業績推移 (累計) (百万円)	19年12月期				20年12月期				20年12月期	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	(進捗率)	通期会予
売上高	1,611	2,005	2,008	2,838	551	1,361	2,333	2,987	98.2%	3,043
前年比	81.4%	4.0%	-33.8%	-26.0%	-65.8%	-32.1%	16.2%	5.3%		7.2%
売上総利益	609	529	563	865	128	330	611	867		
前年比	144.0%	-7.7%	-39.1%	-26.3%	-79.0%	-37.7%	8.5%	0.2%		
売上総利益率	37.8%	26.4%	28.0%	30.5%	23.2%	24.2%	26.2%	29.0%		
販管費	1,205	2,545	4,099	5,166	1,090	2,170	3,753	5,373		
前年比	25.0%	34.1%	44.8%	34.9%	-9.6%	-14.7%	-8.4%	4.0%		
売上高販管費比率	74.8%	126.9%	204.1%	182.1%	197.6%	159.5%	160.9%	179.9%		
営業利益	-596	-2,015	-3,536	-4,302	-962	-1,840	-3,142	-4,506	-	-4,592
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-
経常利益	-616	-2,069	-3,642	-4,377	-991	-1,883	-3,221	-4,616	-	-4,656
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
経常利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-
四半期純利益	-617	-2,070	-3,641	-4,376	-992	-1,885	-2,694	-4,090	-	-3,796
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
四半期純利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-

四半期業績推移 (百万円)	19年12月期				20年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,611	394	3	830	551	809	972	654
前年比	81.4%	-62.2%	-99.7%	3.3%	-65.8%	105.7%	-	-21.1%
売上総利益	609	-79	33	302	128	202	281	256
前年比	144.0%	-	-90.5%	21.4%	-79.0%	-	738.4%	-15.2%
売上総利益率	37.8%	-	-	36.4%	23.2%	25.0%	28.9%	39.1%
販管費	1,205	1,340	1,555	1,067	1,090	1,080	1,583	1,620
前年比	25.0%	43.4%	66.5%	7.0%	-9.6%	-19.4%	1.8%	51.8%
売上高販管費比率	74.8%	340.4%	-	128.6%	197.6%	133.5%	162.9%	247.5%
営業利益	-596	-1,419	-1,521	-765	-962	-878	-1,302	-1,364
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-
経常利益	-616	-1,453	-1,573	-735	-991	-892	-1,338	-1,395
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
経常利益率	-	-	-	-	-	-	-	-
四半期純利益	-617	-1,453	-1,571	-736	-992	-893	-809	-1,396
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
四半期純利益率	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

*前年同期比が100%を超える場合は、“-”と表示している。

販売費及び一般管理費の内訳

四半期業績推移 (累計) (百万円)	19年12月期				20年12月期			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
販売費及び一般管理費	1,205	2,545	4,099	5,166	1,090	2,170	3,753	5,373
前年比	25.0%	34.1%	44.8%	34.9%	-9.6%	-14.7%	-8.4%	4.0%
研究開発費	472	963	1,972	2,442	438	834	1,745	2,267
前年比	13.4%	14.8%	52.5%	33.2%	-7.1%	-13.4%	-11.5%	-7.2%
研究開発費を除く販管費	733	1,582	2,127	2,725	651	1,336	2,008	3,107
前年比	33.8%	49.3%	38.3%	36.5%	-11.1%	-15.5%	-5.6%	14.0%

四半期業績推移 (百万円)	19年12月期				20年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
販売費及び一般管理費	1,205	1,340	1,555	1,067	1,090	1,080	1,583	1,620
前年比	25.0%	43.4%	66.5%	7.0%	-9.6%	-19.4%	1.8%	51.8%
研究開発費	472	491	1,009	470	438	396	911	522
前年比	13.4%	16.2%	122.1%	-13.0%	-7.1%	-19.4%	-9.7%	11.0%
研究開発費を除く販管費	733	849	546	597	651	685	672	1,098
前年比	33.8%	66.0%	13.8%	30.6%	-11.1%	-19.3%	23.2%	83.9%

出所：会社データよりSR社作成

*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

2020年12月期通期実績

- ▷ 売上高：2,987百万円（前期比5.3%増）
- ▷ 営業損失：4,506百万円（前期は4,302百万円の営業損失）
- ▷ 経常損失：4,616百万円（前期は4,377百万円の経常損失）
- ▷ 当期純損失：4,090百万円（前期は4,376百万円の当期純損失）

売上高は前期比で増収となった。トリアキシン®の製品販売等により売上高を計上した。

増収効果と販売費一般管理費の増加によって、営業損益以下の各損益段階で損失が拡大した。販売費及び一般管理費は、5,373百万円（前期比4.0%増）となった。研究開発費は2,267百万円（同7.2%減）となった。トリアキシン®の注射剤およびリゴセルチブの注射剤の臨床試験費用が発生した。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は3,107百万円（同14.0%増）となった。自社販売体制の構築のための先行費用を計上した。経常損失と当純損失の差は、特別利益として受取和解金525百万円を計上したことによる。

国内

自社販売体制の構築について

同社は、販売委託先であるエーザイ株式会社（以下、エーザイ）との事業提携契約が2020年12月に満了となることから、2018年10月よりトリアキシン®の国内販売について自社による販売体制構築の準備を開始した。

今期においては、地域のニーズに合致した提案を企画し、高い生産性をもつ営業組織体制を確立するため、医薬情報担当者53名を全国に配置するとともに、「ヘマトロジー・エキスパート」9名を各地域に設置した。

全国流通体制を確立するため、2020年9月には株式会社スズケン（以下、スズケングループ）および東邦薬品株式会社（東邦ホールディングス株式会社の連結子会社、以下、共創未来グループ）との間で医薬品売買に関する取引基本契約の締結を完了した。エーザイとの事業提携契約の満了後、スズケングループと共創未来グループの2社を総代理店として取引を開始した。全国物流体制の構築については、株式会社エス・ディ・コラボとの取引を開始し、東日本と西日本の2拠点に物流センターを設置した。

これによって自社販売体制の構築は完了し、エーザイとの事業提携契約の満了にともない、2020年12月には自社によるトリアキシン®販売体制へ移行した。

製品の安定供給について

同社は現在、トリアキシン®の凍結乾燥注射剤をアステラス製薬株式会社の連結子会社であるアステラスドイツランド社（以下、アステラスドイツ）から輸入している。当第2四半期累計期間（上期）においては前年同期と比べてトリアキシン®の在庫レベルは低い状態で推移していた。当下期は輸入した複数のバッチの二次包装と品質検査を計画通りに実行した結果、現在は在庫レベルが回復した。

同社は、イーグル・ファーマシューティカルズ社（以下、イーグル社）よりトリアキシン®液剤（RTD製剤）のライセンスを受け、2020年9月に製造販売承認を取得し、2021年1月より販売を開始する。当第4四半期（2020年10-12月）には、トリアキシン®液剤（RTD製剤）の輸入および総代理店への出荷を開始した。

抗がん剤SyB L-0501（凍結乾燥注射剤）/SyB L-1701（RTD製剤）/SyB L-1702（RI製剤）（一般名：ペンダムスチン塩酸塩、商品名：トレアキシシ[®]）

抗がん剤トレアキシシ[®]については、未治療（初回治療）の低悪性度非ホジキンリンパ腫（低悪性度NHL）およびマンツル細胞リンパ腫（MCL）（2016年12月に製造販売承認を取得）、再発・難治性の低悪性度NHLおよびMCL（2010年10月に製造販売承認を取得）、慢性リンパ性白血病（CLL）（2016年8月に製造販売承認を取得）を適応症として、悪性リンパ腫領域において使用されている。

2018年7月に日本血液学会が発行した造血器腫瘍診療ガイドラインにトレアキシシ[®]とリツキシマブの併用療法（BR療法）が新たに記載され、既承認のすべての適応症において、標準的治療の選択肢として推奨されることになった。これにより悪性リンパ腫における標準療法としてトレアキシシ[®]が位置づけられた。

また、低悪性度NHLの代表的な組織型であるCD20陽性の濾胞性リンパ腫（FL）に対して、リツキシマブのみならず新規の抗CD20抗体製剤との併用に係わる一部変更の承認取得（2018年7月）により、オビヌツズマブとの併用療法が治療選択肢として提供されている。これに加え、腫瘍特異性T細胞輸注療法の前処置に関する一部変更の承認取得（2019年3月）により、国内初のキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）療法「キムリア[®]点滴静注」（2019年5月薬価収載）の前処置としてトレアキシシ[®]の使用が可能となった。再生医療等製品の前処置としての使用方法の広がりによって、悪性リンパ腫における標準療法としてのトレアキシシ[®]の位置づけは強固なものとなっている。

既に承認を取得した上記の適応症に続き、再発・難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（r/r DLBCL）のBR療法による第III相臨床試験については、試験成績の主要評価項目である奏効率において期待奏効率を上回る結果となった。これを基に、2020年5月に製造販売承認事項に係わる一部変更承認申請を行った。トレアキシシとリツキシマブを併用投与した時の生存時間データ（全生存期間、無増悪生存期間など）を評価することは、同剤のDLBCL治療における位置付けに重要なデータとなるため、全生存期間を主要評価項目とする追跡調査試験を実施中である。また、中外製薬株式会社（以下、中外）がr/r DLBCLを対象としたポラツズマブ ベドチンとBR療法との併用について、2020年6月に製造販売承認申請を行ったことを受け、2020年7月、同社はトレアキシシ[®]とポラツズマブ ベドチン、リツキシマブとの併用療法に対する製造販売承認事項に係わる一部変更承認申請を行った。同社および中外の申請について、両社とも承認取得後、ポラツズマブ ベドチンが薬価収載され次第、ポラツズマブ ベドチンとBR療法との併用においてトレアキシシ[®]の使用が可能となる。この追加適応症については、現在有効な治療方法がないため、救援化学療法として複数の抗がん剤を組み合わせた多剤併用療法が使われているが、高い有効性と安全性が期待できる新たな治療薬の開発が望まれている。またBR療法については、すでに欧米においてr/r DLBCLの患者の治療に使われており、日本においても早期に使えるよう患者団体および関係学会から厚生労働省に対して要望書が提出された。

2017年9月にイーグル社との間でトレアキシシ[®]液剤（RTD製剤およびRI製剤）の日本における独占的ライセンス契約を締結した。RTD製剤については2020年9月に製造販売に関する承認を取得し、2021年1月に販売を開始する。RI製剤については安全性に関する臨床試験を実施中で、2021年12月期中に承認申請の予定である。RTD製剤は、従来の凍結乾燥注射剤に比べて、手動による煩雑な溶解作業が不要で、そのために要する時間を短縮することができ、医療従事者の負担軽減とが可能となる。RI製剤は、投与時間が、従来の凍結乾燥注射剤およびRTD製剤の60分に対して投与時間が10分間に短縮されるため、患者と医療従事者の負担を低減することが可能となることから、大きな付加価値を提供することができる。また、液剤の製剤ライセンスによる複数の特許保護を通じてトレアキシシ[®]の製品寿命を2031年まで延長することが可能となる。

抗がん剤SyB L-1101（注射剤）/SyB C-1101（経口剤）（一般名：Rigosertib Sodium（リゴセルチブナトリウム））

リゴセルチブ注射剤については、導入元であるオンコノバ・セラピューティクス社（以下、オンコノバ社）が、現在の標準治療である低メチル化剤による治療において効果が得られない、治療後に再発した、または低メチル化剤に不耐容性を

示した高リスク骨髄異形成症候群（高リスクMDS）における全生存期間を主要評価項目として、全世界から20カ国以上が参加している国際共同第III相臨床試験（INSPIRE試験）を実施した。オンコノバ社は、2020年8月に医師選択療法との比較において主要評価項目を達成しなかったことを発表した。同社は日本における臨床開発を担当しており、INSPIRE試験の追加解析から得られた知見を今後のリゴセルチブの開発に活用するための検討を進める。

リゴセルチブ経口剤については、オンコノバ社が米国において初回治療の高リスクMDSを目標効能とする第I/II相臨床試験（アザシチジン併用）を完了し、リゴセルチブ経口剤とアザシチジンを併用した際の有効性および安全性が示唆されている。同社はリゴセルチブ経口剤の初回治療の高リスクMDSを目標効能として、単剤により高用量の安全性および日本人での忍容性を確認するために2017年6月に国内第I相臨床試験を開始し、2019年6月に症例登録を完了した。

抗ウイルス薬 SyB V-1901（一般名：Brincidofovir（プリンシドフォビル））

同社は2019年9月にキメリックス・インク社（以下、キメリックス社）との間で抗ウイルス薬プリンシドフォビルの注射剤および経口剤（SyB V-1901、以下それぞれ「BCV IV」および「BCV Oral」）に関しての独占的グローバルライセンス契約を締結した。同社は天然痘疾患を除くすべての疾患を対象としたBCVの世界全域における開発・販売に加えて製造を含む独占的権利をキメリックス社から取得した。

同社は、2020年2月に開催したグローバルアドバイザリーボードでの検討の結果、「空白の治療領域」でアンメットメディカルニーズの高い造血幹細胞移植後のアデノウイルス（AdV）感染症を対象に、日本、アメリカ、ヨーロッパを中心としたBCV IVのグローバル開発を優先的に進めることを決定した。当該試験の進展により得られた有効性と安全性に関する知見に基づき、造血幹細胞移植後の各種dsDNAウイルス感染症に対する効果を検討し、抗マルチウイルス感染症へ対象領域を拡大する。さらに腎臓移植を含む臓器移植分野等の対象領域拡大の可能性を追求することにより、市場の拡大、BCVの事業価値の最大化を目指す。現在、2021年12月期に開始予定の小児のBCV液剤の用量設定の試験開始に向けて、準備を進めている。

同剤は既にキメリックス社による欧米における臨床試験においてBCV Oralが高活性の抗ウイルス効果を示している。また広域のスペクトラムを有することが確認されており、各種dsDNAウイルスに対する幅広い抗ウイルス活性は、BCV IVについても造血幹細胞移植後の各種ウイルス感染症の予防および治療に対する有効性と安全性が期待される。

キメリックス社は、2020年12月、米国食品医薬品局（FDA）が天然痘の医学的防衛策としてBCVの新薬申請（NDA）の提出を受理したことを発表した。FDAは優先審査を認め、処方薬ユーザー・フィー法（PDUFA）に基づき、審査終了目標日（PDUFA Date）を2021年4月7日に設定した。

自己疼痛管理用医薬品 SyB P-1501

同社が2015年10月にザ・メディシンズ・カンパニー社（以下、MDCO）から導入したSyB P-1501（米国での商品名IONSYS）については、2017年10月にMDCOによるライセンス契約の不履行に起因して生じた損害の賠償として、82百万米ドルの支払を求める仲裁を国際商業会議所の規定に基づき申し立てた。同社は、MDCOが欧米市場から撤退を決定したこと、ライセンス契約に基づく義務の履行について十分な保証を同社に対して提供しなかったことは、ライセンス契約の重大な違反である旨仲裁で主張した。2020年9月、仲裁廷は、同社が主張した損害賠償請求は認めない一方で、同社が仲裁で回収しようとした弁護士費用を含めた諸費用の50%に相当する約5百万米ドルをMDCOが同社に支払うよう、判断した旨の最終決定が確定したことを同社が発表した。

海外

SyB L-0501については、韓国、台湾、シンガポールにおいても販売されており、同社の製品売上は計画通り順調に推移した。

新規開発候補品の導入

同社は2019年9月に導入した抗ウイルス薬プリンシドフォビルのグローバル開発計画の推進に当面は注力するものの、常時複数のライセンス案件の検討と新薬開発候補品のライセンス権利取得に向けた探索評価を継続的に実施する。

今期会社予想

(百万円)	20年12月期		21年12月期	
	上期実績	下期実績	通期実績	通期会予
売上高	1,361	1,626	2,987	9,151
売上総利益	330	537	867	6,957
売上総利益率	24.2%	33.0%	29.0%	76.0%
販売費及び一般管理費	2,170	3,203	5,373	5,596
売上高販管費比率	159.5%	197.0%	179.9%	61.2%
研究開発費	834	1,433	2,267	2,019
研究開発費を除く販管費	1,336	1,770	3,107	3,577
営業利益	-1,840	-2,666	-4,506	1,361
営業利益率	-	-	-	14.9%
経常利益	-1,883	-2,733	-4,616	1,350
経常利益率	-	-	-	14.8%
当期純利益	-1,885	-2,205	-4,090	1,149
純利益率	-	-	-	12.6%

出所：会社データよりSR社作成

*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

業績予想

2021年12月期通期会社予想は、売上高9,151百万円（前期比206.4%増）、営業利益1,361百万円（前期は営業損失4,506百万円）、経常利益1,350百万円（前期は経常損失4,616百万円）、当期純利益1,149百万円（前期は当期純損失4,090百万円）を見込む。

売上高では、自社販売への移行などによってトリアキシン®の国内の製品売上が増加する見通しである。損益面では、営業利益以下の各利益において増収効果による黒字化を見込む。

販売費及び一般管理費は5,596万円（前期比4.1%増）、研究開発は2,019百万円（同10.9%減）を計画している。トリアキシン®においては再発・難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（r/r DLBCL）およびトリアキシン®液剤、リゴセルチブ、これら従来の開発品に加えて抗ウイルス薬プリンシドフォビルの開発を進める。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は3,577百万円（同15.1%増）を予定している。2021年12月期の収益化とその後の収益の持続的拡大を図るべく自社販売体制の確立およびグローバル事業展開の準備についても進める。

パイプラインの主な開発計画は以下の通りである。

トリアキシン®

- ▷ r/r DLBCLについては、2020年5月に製造販売承認事項一部変更承認申請を行った。
- ▷ イーグル社から導入したトリアキシン®液剤については、RTD製剤は2020年9月に製造販売承認を取得し、2021年1月に販売を開始する。RI製剤については安全性の確認を主目的とした治験を推進する。

リゴセルチブ注射剤及び経口剤

- ▷ リゴセルチブ注射剤については、導入元であるオンコノバ社は、低メチル化剤に不耐容性を示した高リスク骨髄異形成症候群（高リスクMDS）を対象とするリゴセルチブ注射剤の国際共同第III相臨床試験（INSPIRE試験）において、主要

評価項目を達成しなかったことを2020年8月に発表した。同社は日本における臨床開発を担当しており、INSPIRE試験のゲノム解析から得られた知見を今後のリゴセルチブの開発に活用するための検討を進める。

抗ウイルス薬プリンシドフォビル

プリンシドフォビル注射剤 (BCV IV) については、2020年2月に開催したグローバルアドバイザリーボードでの検討の結果、「空白の治療領域」でアンメット・メディカル・ニーズの高い造血幹細胞移植後のアデノウイルス (AdV) 感染症を対象に、日本、アメリカ、ヨーロッパを中心としたBCV IVのグローバル開発を優先的に進めることを決定した。グローバル展開を見据えたBCV IV及び経口剤 (BCV Oral) の2製剤の今後の事業展開については各専門領域の研究者と検討を進め、その知見を基にグローバルの臨床試験のデザインを検討する。

同日、同社は2021年12月期から2023年12月期 (3カ年) の中期経営計画に関して発表した。

中期経営計画の業績目標

(百万円)	21年12月期 会予	22年12月期 目標	23年12月期 目標
売上高	9,151	10,985	12,369
前年比	206.4%	20.0%	12.6%
営業利益	1,361	1,738	2,099
前年比	-	27.7%	20.8%
利益率	14.9%	15.8%	17.0%
経常利益	1,350	1,727	2,088
前年比	-	27.9%	20.9%
利益率	14.8%	15.7%	16.9%
当期純利益	1,149	1,470	1,778
前年比	-	27.9%	21.0%
利益率	12.6%	13.4%	14.4%

出所：同社資料をもとにSR社作成

中期経営計画 (2021年12月期から2023年12月期) の業績目標

売上高

売上高については、トレアキシン®の製品売上がその大半を占めている。製品売上の目標数値については、直近で見られる市場への浸透のペース及び売上高の傾向を反映させ、中期経営計画期間の売上成長率を見直した結果を計上した。2020年12月期までの同社の売上高は販売委託先であるエーザイへの製品出荷売上をベースとして計上していたが、2021年12月期以降の自社販売体制においては同社から医薬品卸業者への製品出荷売上をベースとした金額を計上する。

2021年12月期以降の売上高の算定において、2021年12月期第2四半期に承認取得を計画している再発・難治性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) の適応追加によるトレアキシン®の製品売上の拡大を想定し、目標数値を開示した。

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費については、主に研究開発費、その他販売費及び一般管理費に区分した。

- ▷ 研究開発費については、トレアキシン®およびリゴセルチブ、抗ウイルス薬プリンシドフォビルからなる既存パイプラインの最新の開発計画の想定に基づいた費用である。
- ▷ 抗ウイルス薬プリンシドフォビルに続く、既存パイプライン以外の新規開発候補品については、継続して評価・検討は進めるものの導入に関する一時金等の費用は想定していない。
- ▷ その他販売費及び一般管理費については、主としてトレアキシン®の営業、マーケティング業務、生産物流業務、事業開発業務、管理業務関連費用で構成される。2021年12月期からのトレアキシン®の自社販売体制の運営に係わる費用を想定している。主に医薬情報担当者の増員に伴う人件費および活動コストの増加を見込んでいる。

当期純利益

当期純利益は、2020年2月に公表した前中期経営計画においては、2021年12月期以降に繰越欠損金等の解消が進むことの影響額を税効果会計に反映し、2021年12月期と2022年12月期において経常利益を上回る当期純利益を計上した。新たな中期経営計画においては、会計監査人の見解も踏まえ、2021年12月期以降の法人税等調整額の要素を除外して計画を策定した。

人員計画

人員計画については、2020年12月期に62名から成る全国営業組織の構築を完了した。それ以外の組織においては必要な人員配置を計画し、そのための人件費を計上している。抗ウイルス薬プリンシドフォビルのグローバル展開に伴う増員を計画し人件費に反映した。

資金計画

資金計画については、将来の事業展開に応じた資金需要に対して柔軟かつ機動的に対応できるよう、財務基盤の強化に努める。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.
東京都文京区千駄木3-31-12
HP: <https://sharedresearch.jp>
TEL : (03)5834-8787
Email: info@sharedresearch.jp